

NPO 法人

奈良21世紀フォーラム会報

2009 年新春号

年頭のご挨拶

奈良 21 世紀フォーラム理事長 森 本 公 誠

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には新春を迎えられて、益々ご清祥のことと心からお慶び申し上げます。昨年の年頭挨拶には、暗いニュースが日常茶飯事のように続き、前年を象徴する漢字に「偽」が選ばれるほど、偽装問題に明け暮れた年だったことに触れましたが、そのような世相がいつそう加速されたのか、昨年はまさに激変の年でありました。年中行事のようになっている清水寺貫主の墨書も「変」が選ばれました。



米大統領選でオバマ氏が「チェンジ」を叫んでいたのを皮肉るかのように、アメリカに始まった金融危機はあっという間に世界中を駆けめぐり、株価は暴落、1ドル90円を割り込む過激な円高、資金繰りがつかなくなった企業のリストラ、大手・中小を問わず100年に一度といわれる大不況と、一昨年の暗澹たる気分は、いまや恐怖にも似た逼塞感となって、日本のみならず世界中に横溢しています。このたび、一挙に職を失うことになった人々の大半は、そうした恐怖心の犠牲者である気がしてなりません。過去の時代と違って、情報が瞬時に伝えられる現代だからこそ起こりえた現象なののでしょうか。

それに、政治の軽さも気になることです。かつては貧しくとも心は太陽という言葉がまじめに通る世の中だったものが、いまや何もかもがお金の価値に換算され、お金への執着が人々の幸福感を変えてしまったのかもわかりません。お金以外のことに価値を見出し、幸福とは何かを普段から心していれば、これほどの経済的ショックを感じないで済んだかもしれません。私は思うのです。私が子供のころに経験した60有余年前の敗戦前後の激変に比べれば、このたびの「激変」はまだまだ軽微だと。

ささやかな NPO 法人「奈良 21 世紀フォーラム」であっても、このような世間の寒風を少しでも暖かくできないものか、会員の皆様ともども考えていきたいところです。そのような意味もあって、2010 年の平城遷都 1300 年事業に資すればと、一昨年末、大極殿前での朝賀の儀の復元案を県当局に提案しましたが、これは天皇崇拝を助長するとのことで不採用となりました。このことを年初に、会員の皆様にお断りしなければならないのは残念であります。大極殿という建物に魂を入れる重要な儀式と考えていることには変わりありません。今後も奈良時代の宮廷儀礼のことは、NPO 法人として学者の方も交えて研究していきたいと思っております。

従来からの事業方針は新しい企画も加えて踏襲される予定です。会員の皆様には奈良県の良さを発信する手立てとなれるように、いっそうのご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

平成20年度事業の進捗状況と今後の活動

1. 「朝賀の儀」復元シナリオの作成

『東大寺に残る資料などを参考にして「大仏開眼法要」に見られる、古代国家イベントの復元を行う。あわせて、2010年秋開催予定の平城遷都1300年記念事業のメインイベント事業に協力する。』としている。

昨年10月まで、平城遷都1300年記念イベント事業に協力する方策について、事務局で種々検討を行ってきたが、昨年10月24日に平城遷都1300年事業協会と協議した結果、協会側に「朝賀の儀」をイベントに採択する計画（意志及び資金）が無いことが確認されたため、2010年秋のメインイベント事業への協力については、軌道修正を行なわざるを得ない状況にある。

今年度の事業目標である、「朝賀の儀」に基づく古代国家イベントの復元については、学術的な調査研究を行うためのチーム編成を理事長及び猪熊理事が進めており、年明けから本格的な活動が始まる見込みである。

2. 「万葉けまり」の復元

（古代の復元か再現か、万葉けまり復興の経過）

藤原鎌足ゆかりの談山神社では、春秋の好季節に「けまり祭」が開催される。この蹴鞠は京都にある蹴鞠保存会により演じられている。この蹴鞠の詳細は平安時代中頃以降の古文書に記述されている。宮中で天皇や貴族が催した蹴鞠は、鎌倉時代には上級武士の間でも盛んになり、江戸時代には一般庶民に普及した。その後一旦途絶えたが、明治になって明治天皇御下賜金により保存会が結成されて復活、以降京都御所等で年中行事として催されている。他方、蹴鞠は我が国のサッカーのルーツとしてサッカーの母国イングランドサッカーミュージアムで紹介されている。

（1）はじめに

平成7（1995）年に、談山神社けまり祭に参詣したスポーツジャーナリストでサッカーに造詣の深い賀川 浩氏は、同行した元奈良県サッカー協会理事 倉井三郎氏に「現存する平安時代から京都に残る公家の蹴鞠とは別に、我が国最古の宮都が営まれた奈良飛鳥の地で行われたとされる「打毬」を創作、復元しては」と提言を受ける。（注：中国の史記によれば、蹴鞠は6世紀始めに行われていて7世紀になり東アジアに伝えられ、7世紀始めには日本にも伝えられていた。日本での蹴鞠の初見は「日本書紀」の皇極3年（644年）正月条の記述である。法興寺（飛鳥寺）の西側にあった槻樹広場で中大兄皇子は蹴鞠に興じていて鞠を蹴ったところ靴が脱げ落ち、中臣鎌足はすばやく靴を拾い上げ跪いて奉った。この出会いを契機に二人は親しくなり大化改新に繋がるエピソードは良く知られている。）

平成9（1997）年に、談山神社けまり祭に東京大学教授 浅見俊雄氏（日本サッカー協会理事）、東京大学名誉教授 渡辺 融氏（蹴鞠研究の権威者）、倉井三郎氏、福嶋重博奈良県サッカー協会理事長が参詣した際、談山神社宮司 川南 勝氏を交えて古代蹴鞠創作に向けた研究会を持つことになった。渡辺先生は「京都の平安蹴鞠の他、信州上田、四国金比羅でも行われているので、奈良から元祖蹴鞠（？）を発信しても良いのではないか」との意見であった。

平成12（2002）年に、当フォーラム福嶋重博監事から、古代の新羅と倭国（日本）において蹴鞠が盛んだったことや、飛鳥寺西側にあった槻樹広場は国家的な儀礼行事が行わ

れた場所であり新羅の王子が来日時、蹴鞠で親交を結んだと伝えられることなどを周知するとともに、サッカーは現代版蹴鞠と言えるので2002年日韓共催となるワールドカップを背景に、古代蹴鞠の創作復元を奈良21世紀フォーラムの事業にする事ができないかと提案され総会に於いて承認された。

(2) 蹴鞠復興へ

平成13(2001)年8月31日、蹴鞠製作委員会が発足し、第1回委員会が開催される。

石橋毅一 (当フォーラム理事長)	猪熊兼勝 (京都橘女子大学教授)
賀川 浩 (スポーツジャーナリスト)	渡辺 融 (東京大学名誉教授)
元塚敏彦 (奈良県教育委員会)	倉井三郎 (当フォーラム蹴鞠担当)
高岡幸雄 (当フォーラム)	大辻康夫 (当フォーラム)
福嶋重博 (当フォーラム)	

以上委員9名他、川南 勝 (談山神社宮司)、山根方義 (JR 西コミュニケーション) 両氏同席

- ・名称を「万葉けまり」とする。
- ・衣装 (ユニフォーム) を猪熊先生に依頼する。飛鳥時代を知るうえで貴重な資料である天寿国曼陀羅繡帳 (中宮寺) の人物像に基づきデザインされた衣装を考案される。
- ・猪熊先生デザインによる衣装は近鉄百貨店から提供を受ける。
- ・競技進行用の太鼓、鐘は大阪四天王寺ワッソ事務局から借用する。

平成14年4月7日、第4回委員会で競技規則が承認され、演技を見学して蹴鞠製作委員会は終了する。

(3) 「万葉けまり」の披露

平成14(2002)年5月	談山神社に奉納し、報道関係者へ披露
平成14(2002)年6月	日韓ワールドカップイベント (神戸市) に参加
平成14(2002)年11月	大仏開眼1250年に奉納 (大仏殿北庭)
平成15(2003)年4月	橿原神宮大例祭 (神武さん) 奉祝行事に参加
平成16(2004)年8月	日韓友好親善フェスティバル (大阪長居競技場) に参加
平成16(2004)年11月	四天王寺ワッソオープニングイベント (大阪難波宮跡)
平成17(2005)年1月	NHK 古代史ドラマ「大化改新」の蹴鞠会シーンにエキストラ出演
平成17(2005)年8月	アジアンサッカーフェスティバル (大阪長居競技場) に参加
平成18(2006)年11月	四天王寺ワッソオープニングイベント (大阪難波宮跡) に参加



(4) 今後の活動

- ・平城遷都1300年記念事業を踏まえ「万葉けまり」の周知への展開

我が国でのサッカーのルーツとして紹介されている蹴鞠を資料に基づきながら、競技感覚を採り入れた飛鳥時代の蹴鞠を再現した「万葉けまり」を各社寺に奉納する他、かつて東アジア地域にも国境をこえたスポーツ（蹴鞠）があったことを当フォーラムの「地域の歴史文化の再現に関する事業」として伝える。

- ・「万葉けまり保存会」の創設

鞠足（競技者）を会員として定期的に練習を行う。

- ・中国、韓国の蹴鞠の資料収集

- ・全国各地に伝承されている蹴鞠の紹介

信州上田、四国金比羅、京都蹴鞠保存会、飛鳥財団等

- ・万葉けまりの鞠足（競技者）にゲストとしてJリーガーを招請

3. 書の文化の伝承

「第2回書くことは楽しい in 奈良」開催報告と今後の活動

「書」が、IT社会において新しい形で発展し続けることを願って、奈良の文房三宝をめぐる奈良の匠の技を紹介ながら、書の魅力を再発見してもらおうと11月6日から9日まで奈良市のなら工芸館で開催しました。この期間中外国人4名を含め284名の方々が訪れました。正倉院展に合わせた奈良工芸フェスティバルに参加したせいも、奈良県の方より他県の方が多く来られました。沖縄や関東からお越しの方、外国からの観光客4名など来館者は多方面に亘りました。51作品の展示があり、前回に比較して盛況でした。またデジタル書に対しても、3名の方が大阪の体験会に参加したいとパンフレットを持っていきました。初めて奈良在住のデジタル書作家が現れる！との、期待を持った次第です。このように広がりがみられるようになったことはなら工芸館のスタッフの方々始め関係者のご支援の賜物と感謝しております。

墨・筆の技術革新で古典的な書が奈良で発展したように、IT社会においても、書の新しい形で展開していき、書の文化の中心であり続けるようにしたいものです。そのためにこのイベントを継続していくことが大切であると思っています。

(1) 奈良にゆかりのある文房三宝をめぐる匠の技の紹介

奈良毛筆協同組合による奈良の匠の技を示す画筆、奈良筆など約12点やその材料の毛、その製作工程パネル展示

奈良製墨協同組合による奈良の匠の技を示す各製墨会社の芸術品の名墨約20点、とその製作工程パネル展示

「究極の墨の色を求めて ～古都奈良の墨づくり～」の上映による墨文化の紹介

(デジタルコンテンツ協会の助成で制作した伝統産業アーカイブ)



(2) 作品展示

～墨・筆・紙・IT技術でこんなことができる～

3つのジャンルに分けて展示

デジタル書作家協会の作品5点

デジタル書とは

筆などで書いた文字をスキャナーあるいはデジタルカメラでパソコンに取り込んでデジタル化した後、画像処理ソフトを使って、彩色したり、他の画像と合成したりして得られる、「書」の新しい表現形式



自筆の作品を世界に発信できるブログ

自筆文字をフォント化（電子書体）し、「画像」でなく縦書きスクロールできる「漢字・仮名文字」のとして世界の人々に発信できるシステム（有）ハイパーワークス



書くことが楽しくなる作品

奈良女子大学、京都大学、東京学芸大学と一般県民などの作品 46 点
各作品には作品名、作者、作品制作に至るコメントを付けた。



4. 「吉野川源流水源地の森を守る」活動

（1）平成20年度吉野川水源の森保全への支援活動の記録

3月29日

奈良県環境フォーラム（奈良新聞社主催）

奈良県文化会館前広場のバザーに参加し、川上村源流の村の物産をチャリティ販売すると共に、水道水と源流の水の飲み比べや、パンフレットの配布等を実施した。

会員4名、奈良町情報館4名が参加した。

6月16日

川上村に「道の駅」振興対策を提案

村が限界集落となり、森の保全が不可能となって水質が悪化するのを防ぐ為にも、集落の活性化と道の駅の改善、産業振興対策を提案する。

8月27日

森と水の源流館主催「森と水のシンポジウム」

森林環境教育に対する川上村の取組みを報告するシンポジウム「水源地の森からの提言～地域をいかす環境教育とは」が橿原市商工経済会館で開催され、当フォーラムも運営に協力し会員8名が参加した。川上村は吉野川（紀の川）の水源地の村であり、源流部に保全する手つかずの原生林と、吉野林業発祥の地として脈々と施業をしてきた人工林、これら森林資源の価値と魅力を知るとともに、「森林環境教育」という観点で、どのように生かすことが出来るか、地域に求められることは何かについて考える機会であった。



9月14日

森守チャリティ募金ふれあいデー

本年度で6回目のふれあいデーのバザーに参加し、今年度も長野県川上村や大和高原の野菜を販売。好評で例年どおり開店前から行列ができるほどの人気であり、11時販売開始で13時には完売することができた。ふれあいデーに会員とその家族10名が参加した。



9月20日

奈良県環境フェア

大和高田市の奈良県広域地場産業振興センターにおいて行われた「環境フェア」に森と水の源流館が出展した事業に協力、チラシ配布や廃材を利用した子供工作の助言を行った。応援に会員2名が参加した。



9月20日

大和の水がめと県営水道展

広陵町ショッピングセンターにおいて行われた「県営水道展」に森と水の源流館が出展した事業に協力、水道水に関するアンケート、水道水と市販水の飲みくらべ、廃材の絵つけ、風船の配布等を行った。応援に会員2名が参加した。



11月2日

香芝市民まつり

市民まつりの環境部門に出展した森と水の源流館の事業に協力、廃材の細工教室、チラシの配布、イベントの説明等を行った。応援に会員2名が参加した。



1 1月9日

源流の村「山幸彦まつり」

山幸彦まつりのバザーに参加し、半年間に制作した陶磁器約50点を販売した。売上金は水源地の森守募金に寄金する。応援に会員2名が参加した。



(2) 今後の活動

- ・ 小学校総合学習副読本「水の旅のはなし」増刷と受注活動
- ・ 奈良県「暮らしと環境フェスティバル展」への出展
- ・ 「地域プロデューサー」の育成を図り、森林や伝統文化などの地域資源を最大限に活かしながら地域に見合った事業の発案と運営にかかわり、山間僻地の限界集落を再び活性化させて行くことができるか、研究課題とする
- ・ ふれあい森守募金への参加と協力
- ・ 吉野地区の物産展を開催し、(株)地域活性局と協力、都市と農山村を結び地域の活性化を図りながら平成遷都1300年祭記念イベントに併せて吉野ブランドの展開を図る
- ・ 吉野地区7市町村の小・中学校の河川美化運動推進ポスターの選作60点を県下で展示

5. 「食文化」の伝承

(1) 平成20年4月30日第5回大和の食文化のルーツを訪ねて

水量豊かな蜻蛉の滝をスタートに源流の川辺の散策の後、伝統の山間集落の食文化の数々に舌づつみを打つ、中でも鹿肉のあぶり焼き、あまごの塩焼きは格別であり、また、いたどり、ふき、小芋の煮付け、圧巻は「タラの芽」のてんぷらであった。その後、よもぎ入りの餅つきや炊き立ての茶がゆなぞ、おそ咲きの山桜、紫勾ふ山つつじの花を愛でながらの会であった。一般参加も含め35名が参加した。



(2) 今後の活動

- ・ 3月 東大寺「ごぼう」の試食・体験会の開催
- ・ 4月 大和茶、新茶の手もみ体験
- ・ 5月 近鉄百貨店橿原店ヒット催事「味でめぐる大和百景」へ参加
- ・ 春 第6回大和の食文化のルーツを訪ねての開催
- ・ 夏 三輪そうめんの伝統的な賞味法の体験
- ・ 秋 東大寺「結解料理」の試食体験会
- ・ 大和の神社仏閣に伝承する料理の研究
- ・ 「奈良の食文化研究会」との交流

6. 「神仏霊場会」奈良県ネットワーク支援

「神仏霊場会」の事業の内、奈良県内における寺社ネットワークの推進を支援し、奈良県観光の活性化に資する活動については、昨年9月に開始した神仏霊場会の広報活動に協力しその意図を紹介するため、歴史街道推進協議会に働きかけ、12月3日に大阪市内で行われた歴史街道講演会のテーマに日本文化の特色でもある「神仏習合」を取り上げてもらった。神仏霊場会の発起人の一人で前国際日本文化研究センター所長 山折哲雄先生の講演と「神仏霊場会」ゆかりのゲスト及び当フォーラムの山口副理事長（歴史街道推進協議会会長）によるパネルディスカッションを実施した。

これを契機に、歴史街道推進協議会と連携の方策を協議し、年度内に具体的連携策をまとめる。



理事会構成

理 事 長	森本 公誠	東大寺 長老
副理事長	堀井 良殷	大阪 21 世紀協会 理事長
副理事長	山口 昌紀	近畿日本鉄道（株）取締役会長
専務理事	江並 一嘉	元近鉄百貨店 副社長
理事(終身)	石橋 毅一	大和ハウス工業（株）特別顧問
理 事	足立伸之助	近鉄ケーブルネットワーク（株）取締役相談役
理 事	安細 恭弘	マルチメディアコンサルタント
理 事	猪熊 兼勝	京都橘大学 名誉教授
理 事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 取締役社長
理 事	大辻 康夫	奈良町情報館 特別顧問
理 事	岡橋 清元	清光林業(株) 代表取締役
理 事	榎木 康雄	日昂食品（株）代表取締役
理 事	北浦 弘順	(株)南都銀行 バリュース開発部長
理 事	中畠 實男	奈良中央信用金庫 会長
理 事	中村 憲兒	奈良交通（株）取締役社長
理 事	西口 廣宗	(株)南都銀行 取締役会長
理 事	増尾 正子	増尾グループ 常務取締役
理 事	水谷川忠俊	作曲家
理 事	森下 泰行	近畿日本鉄道（株）特別顧問
理 事	和田 萃	京都教育大学 名誉教授
監 事	中畠 大	中畠大会計事務所 所長
監 事	福嶋 重博	奈良県サッカー協会 名誉会長

(50 音順 平成 20.12.1 現在)

編集 足立伸之助、安細恭弘、福嶋重博、松尾 彰
 発行 NPO 法人 奈良二十一世紀フォーラム
 〒630-8357 奈良市杉ヶ町 33-3 奈良交通杉ヶ町ビル 4 F
 Tel・fax 0742-24-4766 [E-mail:nara21cf@r5.dion.ne.jp](mailto:nara21cf@r5.dion.ne.jp)
 ホームページ <http://www.h7.dion.ne.jp/~nara21cf/>